

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2372 号

Effectiveness of Interdisciplinary Team Conference to Manage Skeletal Events in Rehabilitation for Patients with Cancer

(がん患者リハビリテーションにおける skeletal related events カンファレンスの有用性について)

林 康子 (はやし やすこ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

我々は、骨転移のあるがん患者について安全にリハビリテーション介入がなされるべく、骨関連事象 (skeletal related events 以下 SRE と略す) カンファレンスを開始した。この経験に基づき、SRE カンファレンスがこれらの患者にどのような有効性があるかを後方視的に調査し、検討した。

SRE カンファレンスは 2011 年 4 月から 2012 年 4 月までの期間に、24 回開催された。対象患者は 78 名 (男性 36 名、女性 42 名)、年齢層は 12-84 歳で構成され、平均年齢は 64 歳であった。がんの原発巣は乳がん 21 名、肺がん 19 名、腎がん 7 名、肝がん 7 名、前立腺がん 6 名、食道がん 3 名、胃がん 3 名、その他が 12 名であった。実際にリハビリテーション介入した 50 名で、入院中の病的骨折はなく、75%の患者が活動目標を達成することができた。29 名の不全麻痺患者のうち、目標を達成したのは 13 名であった。16 名の脊椎転移患者は、放射線療法終了してから 4.4 日後には抗重力姿勢をとった。これは SRE カンファレンスが導入される以前の 2006 年から 2007 年までに経験した患者と比較して、明らかに改善し、およそ 2 週間短縮した。自宅退院の割合も増加した。

本研究では、骨転移のあるがん患者に対して SRE カンファレンスを実施することで、病的骨折の危険性を低下させ、より活動的な生活や ADL の自立を達成する上で有用であることを示した。